

■大沼枕山 漢学者・漢詩人。幕末の漢詩ブームのなか、{下谷吟社}を主宰して最多の同人を集めた。

おおぬまちゃんざん

水野忠成者中1818= 江戸下谷御徒町で、幕府御広敷添番の婿養子で竹溪と号し詩をよくした大沼次右衛門の長男に生まれる。

日本外史・・・1827=9歳：父を失い、母と共に、尾張国丹羽村の父の弟鷺津松隠の所に寄寓し、その家塾{有隣舎}に学ぶ。

滑稽+人情本 1835=17歳：江戸に帰り、父を知る*菊池五山の門を叩き、漢詩人として歩み始める。前年神田お玉ヶ池に{玉池吟社}を開いていた梁川星巖と交遊、その門人とも親交を深め、詩名が広く知れわたって行く。

・・・・・・1836=18歳：

大塩平八郎乱1837=19歳：房州を旅し詩作、

適塾+ブーン 1838=20歳：*初めての詩集「房山集」を刊行。

勸進帳初演 1840=22歳：「枕山詠物詩」刊行。芝増上寺学頭寮の梅癡上人のもとに寄寓。

天保改革終 1844=26歳：増上寺学頭寮を出て下谷御徒町に家を借りる。

阿部正弘首座1845=27歳：

・・・・・・1847=29歳：結婚。

北斎没・・・1849=31歳：「枕山絶句鈔」刊行。下谷御徒町三枚橋南畔に家を建て、新居を「考詩閣」と名づけ、詩社{下谷吟社}を開く。

国定忠治疎 1850=32歳：「同人集 初編 二巻」刊行。

尊徳報徳論 1851=33歳：「同人集 二編 二巻」刊行。下総国結城藩に招かれ、その藩校の教授となるもすぐ罷めて江戸に戻る。

江戸に幾つも詩社が出来、*漢詩が空前の盛況をきたす中、{下谷吟社}に最も多く人が集まる。

ペリー来航 1853=35歳：「詠雲詩」刊行。

開国開港・・・1854=36歳：

安政大地震 1855=37歳：「同人集 三編 二巻」刊行。

松下村塾・・・1856=38歳：妻が死去。

蕃書調所・・・1857=39歳：信州を遊歴。叔父杉井のなかだちで蔵前の札差太田嘉兵衛の娘梅を後妻に迎える。

安政の大獄 1859=41歳：「枕山詩鈔初編 三巻」を刊行。

桜田門外変 1860=42歳：長男が誕生するも夭折。

遣欧使節・・・1861=43歳：長女が誕生。「枕山詩鈔第二編 三巻」を刊行。

生麦事件・・・1862=44歳：宮侍に再嫁していた母が死去。

8月18日政変 1863=45歳：

禁門の変・・・1864=46歳：次男が誕生。「大沼枕山編 竹溪先生遺稿」刊行。

薩摩藩士密航1865=47歳：「観月小稿」刊行。

大政奉還・・・1867=49歳：「枕山詩鈔 三編」刊行。

明治維新・・・1868=50歳：

戊辰戦争終 1869=51歳：「東京詞」三十詩を賦し、「東京楽事」として刊行。時事を諷したため、弾正台の糾問を受けたと言われる。

初の日刊新聞1870=52歳：古河藩の藩校で経学詩文の講義。

学問のすすめ1872=54歳：

明治6年政変 1873=55歳：

初の民間工場1875=57歳：「下谷吟社詩 三巻」刊行。

大久保暗殺 1878=60歳：「江戸名勝詩」刊行。

明治14年政変1881=63歳：

新体詩抄・・・1882=64歳：中風を患い歩行不自由になり、そのうち耳目も駄目になった。それでも酒が好きで居酒屋通いを止めなかったといわれる。

秩父事件・・・1884=66歳：成島柳北が死去、寄稿していた柳北発刊の{花月新誌}も廃刊。

内閣発足・・・1885=67歳：「歴代詠史百律」刊行。

帝国憲法発布1889=71歳：

帝国議会始 1890=72歳：仲御徒町に鉄道が敷かれることになり、池之端へ転居。してまもなく、

足尾鉍毒始 1891=73歳：_没した。